

食物アレルギー 適切な対処学習

中央市で研修会

中央市は9日、同市玉穂生涯学習館で食物アレルギー疾患について学ぶ研修会を開いた。

保育士ら155人が出席。

昨年12月、東京都調布市の女兒が給食後に死亡した事故を受け、市内の保育士や教員らが、迅速で適切な行動が取れるよう開催した。昭和・げんきキッズクリニックの宮本直

彦院長が、食物アレルギーの定義や症状が現れたときの対処方法などを説明。「激しいアレルギー反応であるアナフィラキシーが出たときには、まず救急車を呼び、ためらわずに治療の補助剤であるエピペンを使用してほしい」と強調した。

田富北保育園の保育士酒井幸生さん(左)は「アレルギー反応が出た園児を見つけたときは、学んだことを冷静かつ積極的にできるよう心に留めておきたい」と話した。